

画像が得られ、より詳細な形態学的診断が可能であると判定された。本剤は腎および尿路疾患に対する腎機能診断薬として、安全で有用であると考えられる。

### 17. 最近経験した alveolar soft part sarcoma の二症例

伴 茂之	大島 純男	安河内 浩
東 静香	杉山 丈夫	廣瀬 正和
檜崎 克雄	松田 剛毅	菊池 善郎
白井 辰夫	近藤 真木	福光 延吉

(帝京大・放)

Alveolar soft part sarcoma は、主に四肢に好発する希な悪性軟部腫瘍とされている。最近われわれは本腫瘍の二症例を経験し、核医学的所見を中心に報告する。症例1は15歳女性で、右大腿部腫脹を主訴とし、<sup>67</sup>Ga-citrateにおいて、腫瘍に一致して内部が一部不均一な集積を認めた。症例2は33歳男性で、20年来の右大腿部腫脹を主訴に来院した。単純写真にて、軟部腫瘍陰影に一部石灰化を認め、<sup>67</sup>Ga-citrateにおいて、やはり腫瘍に一致して著明な集積を認めた。骨スキャンにおいては石灰化に一致して骨外集積を認めた。

本腫瘍は slow growing な tumor で、早期に遠隔転移をきたす特徴がある。今回の2症例も、入院時にすでに肺転移をきたしていた。

軟部肉腫で<sup>67</sup>Ga-citrate または骨シンチで陽性像を呈する腫瘍の一つとして本腫瘍も念頭におく必要があると思われる。

### 18. 胸部腫瘍性病変に対する <sup>99m</sup>Tc-MIBI SPECT

白川 崇子	守谷 悅夫	森 豊
川上 審司	(東京慈恵医大・放)	
島田 孝夫	(同・内)	

確定診断がついた心疾患を伴う16例の胸部腫瘍性病変に対して<sup>99m</sup>Tc-MIBI の集積を検討した。結果では、原発性肺癌4、転移性肺癌3、悪性胸腺腫1、食道癌1例に対して、腫瘍/正常肺は、1.7以上(平均1.9)であった。各1例の肺炎、良性肺結節の腫瘍/正常肺は平均1.2でサルコイドーシスは良性疾患の中では高く、1.5であった。悪性リンパ腫1と肺癌治療後無病3では集積はなかった。

胸部腫瘍性疾患に対する<sup>99m</sup>Tc-MIBI の集積は悪性腫

瘍で強く良性疾患で弱い傾向にあり、良悪の診断の補助として有用であった。悪性リンパ腫に対しては症例を重ねて検討が必要である。

### 19. <sup>201</sup>Tl 胸部 SPECT 検査における腫瘍内集積の定量化

斎藤 節 池上 匡

(横浜南共済病院・放)

一般にSPECT検査における計数率(SPECT値)には定量性がなく、相対的な値として考慮しても部分容積効果(PVE)によって修飾される可能性がある。われわれは、胸部の<sup>201</sup>Tl-SPECT検査において肺癌等への腫瘍の<sup>201</sup>Tl集積量を定量的に評価する目的で本研究を行った。まず円柱状の<sup>201</sup>Tl線源の断面積を0.8~12 cm<sup>2</sup>まで変えて、SPECT値の変化を観察したところ、同一濃度にもかかわらず7倍以上のSPECT値の差を認め、PVEは無視できないことが解った。次に様々な濃度、断面積の<sup>201</sup>Tl円柱を肺と肺癌の関係に疑似させたファントムに入れ、次いで実際の腫瘍内Tl集積量を測定するため、SPECT値の標準曲線を作成した。患者のSPECT像を撮像する際に、腫瘍と離れた位置に同一濃度の2本の異なる断面積のTl円柱を置き、先に求めた標準曲線上にこれらのSPECT値がのることを確認した上で、患者の腫瘍のSPECT値とCT画像より計測した体積から腫瘍内のTlの集積濃度を計算することが可能であった。

### 20. 新しい腫瘍マーカー(Cytokeratin-19: CK-19)の基礎的および臨床的検討

片桐 科子	西巻 博	石井 勝己
西山 正吾	遠藤 高	依田 一重
磯部 義憲	松林 隆	(北里大・放)

CYFRA 21-1 キット(トーレ・フジバイオニクス社製)を用いて、血清CK-19値を測定し、腫瘍マーカーとしての基礎的および臨床的検討を行った。基礎的検討は再現性と希釈直線性および添加回収試験を行い、測定系として満足のいく精度が得られた。臨床的検討では、血清CK-19値と血清SCC値には相関関係は弱いが認められた。各疾患の血清CK-19の陽性率は、肺癌が66.6% (扁平上皮癌80.0%, 腺癌40%)で、子宮頸癌は23%で2倍と高く、腫瘍マーカーとしての有用性が示